



# SFJ

## ANNUAL REPORT

### VOL.42-MAY2013

---

#### 2012年度活動報告書／収支報告書

CONTENTS\_\_\_ P.1 はじめに / P.2 収支報告書 / P.3—P.4 活動履歴 / P.5—P.7 活動報告 / P.8—P.10 被災地からのメッセージ

---

## はじめに

2013年となり私自身、理事3年目を迎えました。理事になり、いきなり東日本大震災を向かえ激動の2年間でした。そして、今日本の海岸環境は大きな岐路にさし迫っています。2つの大きな問題が海岸環境を脅かしています。一つは、放射能汚染水の漏えいを含む、水質汚染です。2つ目は東北エリアといったで進んでいる巨大防波堤の建設です。どちらも今起きている現実です。今年SFJはこの2つへの対策をメインとして活動していくこととなりました。大勢のSFJスタッフが東北方面に行くことになると思います。2年間でつながった東北ローカルの方と密に連絡を取りあっています。「よーし何かやってみよう」という思いのある方、ぜひご連絡ください。

理事：竹内尚人

2012年度は、東日本大震災が起きた前年に比べると、海にサーファーも戻りはじめたように感じました。しかし、いまだ収束の目処が経たない福島原発の事故と放射能という目に見えない恐怖に、日々の暮らしのなかで不安や悩みがつかないという方も多いかもしれません。でも、起きてしまったことを怒ったり悲しんだり、悔やむより、生きている奇跡に感謝し、いまという限られた時間のなかで、未来のために、前向きに、自分たちにできることは何なのか、被災地へ訪れるたびに強く感じました。そして、こんな混沌とした時代だからこそ、サーファーや社会の声を喚起、結集し、明るいビジョンを描き、魅力的な海岸づくり、よりよい社会づくりに貢献していきたいと思っています。

事務局長：松原広美

## ABOUT SURFRIDER FOUNDATION JAPAN

サーフライダーファウンデーションジャパン(以下、SFJ)は、日本のすばらしい海岸環境を次の世代に残していくために、サーファー、ボディボーダー、海を愛するすべての人の視点から、海岸保護/保全、啓蒙、調査、教育の理念にもとづいて活動を展開しています。1984年にカリフォルニア(米国)で設立され、日本では1993年より活動を開始し、2011年に一般社団法人化しました。

### VISION

美しく、安心、安全な海岸環境の素晴らしさを伝え、次世代のために保護していきます。

### MISSION

SFJは、世界のサーフライダーファウンデーション(アメリカ、ヨーロッパ、南米、オーストラリアなど)と連携し、世界の海、波、ビーチの保護と利用に貢献します。



活動報告会&ビジョン会議@神奈川県江ノ島(2013年1月開催)に集まった活動メンバーたち



## 収支報告

### 味財産増減計算書 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
(単位:円)			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0
受取入金金	0	0	0
受取会費	371,600	337,000	34,600
サポーター会費 個人	291,600	157,000	134,600
サポーター企業	36,000	130,000	△ 94,000
サポーター ショップ	44,000	50,000	△ 6,000
事業収益	888,925	615,699	273,226
事業収益	888,925	615,699	273,226
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	2,737,265	7,863,962	△ 5,126,697
寄付金 個人	200	10,000	△ 9,800
寄付金 企業	0	11,702	△ 11,702
震災関連寄付金	151,000	519,878	△ 368,878
寄付 企業	2,395,806	934,881	1,460,925
寄付 その他	183,259	6,362,501	△ 6,179,242
OWOL寄付金	7,000	25,000	△ 18,000
雑収益	1,107	0	1,107
受取利息	1,107	0	1,107
経常収益計	3,998,897	8,816,661	△ 4,817,764
(2) 経常費用			
事業費	3,704,917	2,264,575	1,440,342
給料手当	468,500	258,600	209,900
旅費交通費	828,481	550,854	277,627
通信運搬費	283,872	121,719	162,153
消耗品費	17,389	44,878	△ 27,489
印刷製本費	122,850	63,300	59,550
燃料費	206,728	107,495	99,233
賃借料	0	99,750	△ 99,750
租税公課	70,000	149,900	△ 79,900
支払寄付金	226,300	360,000	△ 133,700
制作費	1,342,864	473,218	869,646
会議費	0	34,861	△ 34,861
減価償却費	137,933	0	137,933
管理費	2,530,310	1,423,673	1,106,637
給料手当	1,659,680	1,019,169	640,511
福利厚生費	0	25,400	△ 25,400
会議費	0	1,620	△ 1,620
旅費交通費	800	4,200	△ 3,400
通信運搬費	26,495	16,460	10,035
消耗什器備品費	0	6,380	△ 6,380
印刷製本費	0	160	△ 160
燃料費	0	2,500	△ 2,500
租税公課	32,400	3,100	29,300
家賃	357,000	198,000	159,000
報酬手当	333,486	88,888	244,598
減価償却費	23,889	0	23,889
手数料	95,560	57,795	37,764
経常費用計	6,235,227	3,688,248	2,546,979
評価損益調整前経常増減額	△ 2,236,330	5,128,413	△ 7,364,743

科目	当年度	前年度	増減
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,236,330	5,128,413	△ 7,364,743
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産売却損	0	0	0
固定資産減損損失	0	0	0
災害損失	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,236,330	5,128,413	△ 7,364,743
法人税、住民税及び事業税	209	209	0
一般正味財産増減額	△ 2,236,539	5,128,413	△ 7,364,952
一般正味財産期首残高	5,128,413	0	5,128,413
一般正味財産期末残高	2,891,874	5,128,413	△ 2,236,539
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取負担金	0	0	0
受取寄付金	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0
基本財産評価益	0	0	0
特定資産評価益	0	0	0
基本財産評価損	0	0	0
特定資産評価損	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	2,891,874	5,128,413	△ 2,236,539

### 賃借対照表 平成25年3月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
(単位:円)			
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,527,209	4,465,667	△ 2,938,458
未収金	132,970	179,180	△ 46,210
前払金	0	13,200	△ 13,200
仮払金	0	38,656	△ 38,656
商品	674,258	709,008	△ 34,750
流動資産合計	2,334,437	5,405,711	△ 3,071,274
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
什器備品	306,128	0	306,128
ソフトウェア	336,875	0	336,875
その他の固定資産合計	643,003	0	643,003
固定資産合計	643,003	0	643,003
資産合計	2,977,440	5,405,711	△ 2,428,271
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	109,340	△ 109,340
預り金	15,566	18,058	△ 2,492
未払法人税等	70,000	149,900	△ 79,900
流動負債合計	85,566	277,298	△ 191,732
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	85,566	277,298	△ 191,732
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(2) その他一般正味財産	2,891,874	5,128,413	△ 2,236,539
一般正味財産	2,891,874	5,128,413	△ 2,236,539
正味財産合計	2,891,874	5,128,413	△ 2,236,539
負債及び正味財産合計	2,977,440	5,405,711	△ 2,428,271

### 数字で見るSFJ(2012年3月末時)

ホームページアクセス	月間 8,000PV
ユニークユーザー	月間 3,000人
ツイッターフォロワー	4,300人
メルマガ配信	1,100人
Facebook いいね!	830
サポーター登録数	140人
県別ランキング!	東京都 21人
	神奈川県 20人
	千葉県 14人
ボランティア参加人数(延べ)	140人
ビーチクリーンアップ箇所	40
出展イベント数	10
メディア掲載数	10



## 2012年度活動履歴

2012年度は、「顔の見える活動」「つながりをつくる」ことを目標に、ブランディングを強化しました。ホームページのリニューアルや環境系イベント、セミナーへの積極的な出展を通して情報発信を行い、パナーや活動紹介のパネルなどのPRツールもリデザインし、環境問題に興味関心があるサーファー以外の一般市民層にもSFJを知って頂く機会をたくさん設けました。さらに、SFJと志を同じくする海の環境保護団体(NPO法人ワールドオーシャンズデイなど)や、海外の海洋調査機関(5Gyres Institute、Algalita Marine Research Foundation)とパートナーシップを結び、多角的な視点から海洋環境が抱える問題(海に漂流、漂着するプラスチックゴミ、生態系の破壊など)をとともに提起できたことは、SFJにとっても大きな学びとなりました。こうしたネットワークを構築し、活動の幅と露出を拡げたことで、活動やビジョンに共鳴し、サポートしてくれるアーティストやミュージシャンなども増えました。デザイナーの花井祐介さん、ハワイのヘザー・ブラウンさんにご協力頂き、Tシャツなどのコラボグッズも誕生しました。また、ドノバンフランケンレイターの東京、仙台公演に同行し、SFJの協力的なサポーターとして活動の支援を頂きました。今後もこうしたつながりを生かしながら、実績と信頼を積み重ね、共感してくれた方がアクションを起こせるような、参加しやすい仕組み、場づくりを心がけていきたいと思います。

砂浜に埋まっていたテレビ!志田下(千葉)でのビーチクリーンアップの様子



## 4月

- アースデイ東京2012 Ocean Peoples@東京代々木公園、ブース出展

## 5月

- 新キャンペーン "Rise Above Plastics (プラスチック生活から抜け出そう!) 開始
- ドノバンフランケンレイター東京&仙台公演、ブース出展
- NSA 東京支部大会、海辺で環境教育
- GREENROOM FESTIVAL@横浜赤レンガ倉庫(神奈川)、ブース出展
- 宮城県気仙沼訪問

## 6月

- 大磯キッズサーフィンチャレンジ参加
- 「海洋プラスチックごみ、有害物質と生物への影響」シンポジウム参加
- BPD Girls Circuit 第1戦@千葉県一松海岸、ブース出展
- WSA 公認9th 和歌山磯ノ浦キッズサーフィンコンテストブース出展
- ワールドオーシャンズデイジャパン@江ノ島(神奈川) ブース出展

## 7月

- 夏まつり~ Wa-syoi! ~七ヶ浜の夏 Vol.2 @宮城県七ヶ浜町・国際村、ブース出展
- 貝援隊プロジェクト“貝の宝物づくり”ワークショップ @ Wa-syoi 開催

## 8月

- Ocean Peoples@東京代々木公園、ブース出展
- 東京品川区立旗台小学校、出前授業
- 東京世田谷区立桜小学校、出前授業
- HAYAMAN トライアスロン & 女川キッズサーフィンイベント@一式海岸(神奈川) 開催

## 9月

- 宮城県気仙沼 SURF SAVE THE EARTH 表敬訪問
- 南紀下里 CUP 前夜祭、フリーマーケット参加
- 北海道ネットワーク、アツマルシェ ブース出展
- 湘南の海を考えるミニフォーラム「第11回湘南の安全安心と放射能対策」パネリスト参加
- 映画『ASIAN PARADISE』上映会&トークイベント「波乗陀仏×SFJ 環境問題を語る」開催

## 10月

- 全国一斉ビーチクリーンアップ(オーシャンイニシアティブズ)実施
- サーフライダーファウンデーション国際会議@NY(アメリカ)出席

## 11月

- 2012年度活動報告会&ビジョン会議@江ノ島(神奈川)、開催
- 東京電力に対して「低濃度の放射能汚染水の海洋投棄中止を求める要請書」提出

## 12月

- 第7回一宮の魅力ある海岸づくり会議(千葉) 参加

## 1月

- 宮城県仙台、気仙沼訪問
- オーシャンブルーデイ全国で開催



アースデイ東京2012 OCEAN PEOPLESエリアにブース出展



ドノバンフランケンレイター仙台公演の合同に七ヶ浜のサーフショップを表敬訪問



全国一斉ビーチクリーンアップ(オーシャンイニシアティブズ)@八丁浜(京都)



宮城県気仙沼 SURF SAVE THE EARTH のみなさん



海で拾ったプラスチックゴミでつくったドレスをデザインしたマリナ・デブリーさんとハワイ在住のアーティストヘザー・ブラウンさん@GREENROOM FESTIVAL



ゴミからアートを創るモンスターズとのコラボレーション。GREENROOM FESTIVAL 2013ブース出展



ドノバン・フランケンレイター東京公演



## 活動報告

### 教育事業

\_\_ text by 成田正美、太田雅之、菅谷恭子

昨年の3.11が記憶に生々しく残る中、今年はどうなるのだろうかという不安の中での活動開始となりました。

#### 2012 年度 活動イベント

**5月** NSA 東京2区大会にて環境紙芝居

**6月** 大磯キッズサーフィン・チャレンジスクールにて環境紙芝居 ユッピー

**7月** 東京都港区立旗台小学校 出前授業

**8月** 東京都世田谷区立桜小学校 さくらっこ出前授業

**9月** 神奈川県葉山にて女川キッズサーフィン体験教室 S  
※活動に参加してくれた子供たち約150名、ボランティアスタッフ約30名

本年度のイベントでは、海を見つめ直す元年として教育チームの元祖紙芝居『ユッピー』にアドリブを混ぜながらじっくりと取り組み、その結果、子どもへの理解が深まることを実感しました。来年度は、第2の紙芝居『にじいろのさかな』に取り組む予定です。また今年も参加者の皆様からの『サーファーのイメージが変わった!』『海に行きたい、サーフィンをやってみたい!』という声を多く耳にすることができ達成感を覚えることが出来ました。

#### 2013 年度目標

今年はSFJの存在価値を問われている状況の中、やりがいと価値のある教育チームをSFJの活動の主軸の一つとして貢献していきたいと思っています。さらに出前授業をはじめ、現状でできることをSFJ一体となって定めて目標に近づけるよう活動を続けていきたいと思ひます。

東京都世田谷区立桜小学校での出前授業



#### 課題

◎上記の活動の継続 / スタッフの確保とスケジュール調整

◎海での出前授業 / 子供たちの参加有無、安全管理、他団体に迷惑をかけず開催すること

◎被災地での出前授業 / 被災地の子供たちとの交流、スタッフの確保とスケジュール調整

#### スタッフ・アイデア募集

次世代にきれいな海を残したいと考える情熱溢れる方、海や自然が好きで子供たちとの交流に意欲のある方、いつでも参加お待ちしております!!

また、自然の様々な面を楽しく子供たちに伝えることのできる斬新なアイデア、企画など実際行えるものをどしどし提案してください!

### 海岸調査事業

\_\_ text by 栗飯原明

昨年度は被災地のひとつである、気仙沼を訪問致しました。

現在復興作業が進む中、様々な問題が挙がっています。その中に国や県が津波防災対策の柱と位置付けている防潮堤の問題があります。これは気仙沼に限らず、福島県から岩手県までの海岸線を5メートルから最大14メートルという途方もない高さのコンクリート壁で海と陸を遮断する計画です。

ここでもこの防潮堤問題が賛否両論をよんでいるそうで

小学生たちがバドリングにチャレンジ!



す。本当に必要か? 必要だけど高すぎるのではないかとあえず町を再建してからでも遅くはないんじゃないかと? しかし県側の意見としては、防潮堤ありきのセットでの再建計画で、これには国から県への期間の援助の予算関係があるみたいです。

そんな中、いま気仙沼では SURF SAVE THE EARTH という地元サーファー有志達が立ち上げた団体があります。彼らは綺麗な砂浜を未来の子どもたちに残すため、復興計画への意見を地元の声として、提案しています。

今年の1月に神奈川県江の島で行われた報告会に SURF SAVE THE EARTH 代表の佐藤重光さんが参加され、この問題の他にも、子どもたちにもう一度、海の素晴らしさを知ってもらうため、スクールや課外授業みたいなことしてみたい、と提案も頂きました。

海岸調査チームとしても、防潮堤の問題は勿論の事、教育、エネルギーシフトチームと連動して、出来ることを提案し、貢献していきたいと思っています

### エネルギーシフト

\_\_ text by 森野篤

2006年より六ヶ所村再処理工場の稼働中止を求めて活動していた旧六ヶ所村調査団は、2011年3月11日東日本大震災後の福島第一原発事故による放射能汚染をうけて、エネルギーシフトチームに改名をし、活動を開始しました。2012年度は、脱原発を掲げ、原子力エネルギーに頼らないエネルギーシフト、ライフスタイルへの啓蒙、情報発信をホームページやイベントなどで継続して行ないました。

#### 2013 年度目標

今年は、エネルギー問題をはじめとして、持続可能な社会や暮らしのあり方を発信することを目的として、小冊子の製作を継続していく進めていく予定です。また、昨年はイベント面での見える活動が無かったため、参加しやすいようなアクション、イベントも展開し、そのコンテンツや成果も冊子製作に取り入れたいと思ひます。イベント

アイデアとしては、貝殻などを使ったワークショップの他、アンペアダウンなどの省エネの普及、自然エネルギーのワークショップなどを通して、海の大切さ、素晴らしさなどをサーフライダーの視点から、発信していきたいと思ひます。

また、福島第一原子力発電所の事故の収束へ向けての作業をモニタリングするなど、他チームや他団体とも連携していきたいと思ひます。

#### 今後のビジョン

エネルギーシフトは、原子力から、太陽光、水力、風力など代表とする自然力エネルギー(再生可能エネルギー)推進が世間一般でも受け入れられるようになってきました。エネルギーシフトチームでは、エネルギーや物質を大量に消費していかなければ存在して行くことができない社会に対して、アンペアダウンやオフグリッドなど、ライフスタイルや価値観に踏み込んだ普及、海と戯れ、ライフスタイルの一部として自然と向き合ってきたサーファーの感性を生かした提言をしていきたいと考えています。

### OUR WATER OUR LIFE

\_\_ text by 眞田大輔、大山典保

#### 2012 年度活動報告

##### 検査機関の再選定

2012年度末にこれまで検査を依頼していた、千葉県松戸市のATOX(東京電力の水質検査等も引き受け)から検査打ち切りの申し入れがありました。打ち切りの事由として、これまでの担当者が退社したことや、民間からの試験受け入れは今後行わない方針との説明がありました。



そこで、新たな検査機関として、財団法人千葉県薬剤師会検査センターに検査を依頼することとなりました。同センターは、民間からの試験依頼を広く受け入れており、放射能以外の水質検査も行うことができるため、今後の展開においても非常に有効な検査機関と考えています。検査費用については、ATOX 30,000 円／試験体に対して千葉県薬剤師会検査センター 15,000 円／試験体と検査費用も半額になりました。

### 検査実施状況

茨城県1カ所・・・高萩海水浴場

千葉2カ所・・・一宮海岸、夷隅川河口

いずれのポイントもヨウ素、セシウムどちらも不検出

※詳細は HP 掲載報告書参照

## 2013 年度にむけて

### 行政への提案

OWOL の活動の巾を広げ、よりインパクトのある運動とする為、行政への働きかけが必要であると考えています。そこで、まずは、特定のサーフポイントまたは行政に対して働きかける提案を検討しています。SFJ だけでは対応し切れない検査結果（放射能汚染）に対して、行政にも参画してもらい、協働して問題解決に当たれる仕組みを構築することを目指したいと思います。

また、現在行っている水質検査回数では、必要十分とはいえず、行政側でも定期的な検査を行ってもらい、プラットフォームを整えデータを共有し公表する事で、より信憑性の高い水質検査結果を広く市民に提供することを目的とします。

### 活動方針

本活動を通して サーファーだけでなく、海や川、山、水の生態系に関わっている人々に SFJ の活動を認識してもらい、広く一般市民にリーチするため、他の環境保護団体との連携を深めていきます。

### ミッション（使命）

OWOL の活動である従来採水～検査～報告に加え、市民の声を行政に届けるべく政策提言を行い、民官一体となって水質汚染に対して安全で健全に海と生活出来る

よう活動します。

### 目標

現在 SFJ 本部所在地である千葉県長生郡一宮町内の海水浴場（一宮 P）で行っている採水検査を行政側からも参画してもらい回数を増やすこと及び、未だ起きていない水質汚染等の最悪な異変結果に対して、行政がしっかりと解決に当たり、一般市民が安全で、健全に海の利用を出来るような仕組み作りを行政に対して提言していきます。

### 戦略

提言内容に賛同を得るための署名活動やキャンペーンなどを行い、行政へ市民の声を届ける仕組みを構築します。行政の動き如何によっては、あらゆるコミュニケーションツールを駆使し、市民の声を結集させ、活動に賛同する他の NGO と連携しながら、行政に対する活動を展開していきます。

女川キッズサーフィン体験教室@葉山（神奈川）



## 被災地からのメッセージ

### 宮城県気仙沼より

— text by 地球を守る波に乗る会  
Surf save the earth 佐藤重光

**海** 沿いの被害は言うまでもなく深刻で、中でも地盤沈下が1メートル近くに及ぶ場所も計測されており、砂浜だった海水浴場は壊滅、岩場のサーフポイントも水量が増加。漁港の堤防は沈み、地盤の低い住宅地などもたびたび河川があふれて通行止め。高台に集団移転する方、公営住宅に入居する方、自力再建する方、お引越しされる方、2年が経過し被災された方々は新たな一歩を踏み出しはじめました。

2012 年 3 月 11 日の OCEAN BLUE DAY を皮切りに1年を区切りとした地元のサーフィン愛好家が集まり、また海に向き合うきっかけとなったと同時に、海岸線の防潮堤の復興構想が発表されました。人命と道路などのインフラを守るというその海岸線の構想に目を疑いました。県内全域の海岸線、隣の岩手県、福島県のその全域で防潮堤計画が浮上してきました。日本の海岸線の約70%以上がコンクリートやテトラポッドなどによる、人口構造物での防災護岸工事で出来上がった海岸線の現状。それによってサーフスポットが消えていった事例も少なくありません。

諸外国をみてもこの島国において、これほど海沿いを固めてしまう国も珍しく、なにより、景観が悪いと思わずと過ごしてきました。気仙沼は漁業が盛んで、主力産業でもあることから、港から生まれる経済効果はこの町の機動力である事に間違いはありません。しかし、漁獲量も減り、第1次産業が衰退するなかで少子高齢化が進み、過疎化が著しいこの町で、コンクリートで囲む開発的な構想は次世代に残してはいけない負の遺産だと私は思っています。

去年までは環境啓蒙活動として様々なイベントや、復興関係の企画に参画した他、緑の防潮堤（宮脇先生）の講演会、水の専門家（江本先生の講演会）など、まずはサーチと勉強の日々でした。これといって私たちの活動で効果が得られた事例はありませんが、サーファーとして海に通い続けた一人として、様々な会議やミーティングに参加出来たことで、これからの海水浴場の再生や、サーフスポットの保護、保全につなげられる連携体制が構築できました。現状では海水浴場として再生させるという住民の合意形成、防潮堤のセットバックによる砂浜を残す計画に変化したことは、少なくとも環境保全を考慮してもらったことだと思います。

2013 年はこうした連携体制を強化し、お伊勢浜というひとつ

の海水浴場にフォーカスし、流動的な復興構想の展開をデータ化し、水質、放射能、浸水地域での自然生態系を地元の方々と調査していく他、子供たちの考えやニーズをベースに、子供たちが将来住みたい町の海岸環境をサポートしていく活動を目指します。中でも自然生態系の保護や、絶滅危惧種の保護は全ての護岸工事や河川復旧工事を止めさせる効果があることから、ジオパーク構想計画に参画し、環境保護、自然生態系の保全が観光資源などの経済効果が生めるような展開に発展させていく考えです。

さらに「海をつなげる活動」を SFJ と一緒に取り組んでいきます。日本の海岸線それぞれのサーフスポットは各地域の行政が管理しているものと思われませんが、海に入って波に乗って良いか悪いか、という規制はありません。逆に言うところには自由はありません。駐車場や私有地の規制がはびこる中で、護岸工事や河川の治水系工事は土地の所有者としか、話し合いが持たれません。サーファーが環境保護やサーフスポットの重要性を語る時、行政と向き合い意見を交換し合う場がなければ、合意形成はとれません。例え意見交換会、意見書提出、アンケート結果提出をしても過去の事例を見ると、そのほとんどが反映されていないことが見てとれます。サーフスポットを守る地元サーファー、あるいはそこをよく利用するサーファーが関われる仕組みづくりをすることによって、この国のほぼ全域の海岸線が環境保護を訴えられる仕組みに変えられるはずと思っています。

サーファーだからこそ、海の環境を保護している展開になり、次世代に残す海岸環境をどういうものにするべきなのか、考え直すきっかけづくりになることを目的としています。そのツールとして、ここ気仙沼の被災した海水浴場の現状をモデルとして、良い意味でも悪い意味でも、全国に反映させたいと思います。私たちは被災地の一人としてこの教訓をこれからの海沿いの環境保護に繋げたいと思っています。SFJ のこれまでの活動が今日の私の想いを育んでくれたように、私たちも被災者としてではなく、経験者として前向きに、母なる海の恩恵に授かれるよう、海の環境保護にまつわる活動をし続けます。そしてこれがこの国の海岸環境に反映されることを願っています。

SURF SAVE THE EARTH 代表 佐藤重光さん





今後も微力ではありますが、少しでも多くの自然環境が保たれ、気持ちよくサーフィンが出来る景観や環境を目指して活動して行きます。

#### 東日本大震災被災状況 ※2013年2月28日付け

全体の死者数	15,880人
行方不明者	2,700人
避難・転居者	316,353人

#### 宮城県気仙沼市

死者数	1,040人(身元不明者8人)
行方不明者	240人
住宅被災棟数	15,751棟
被災世帯数	9,500世帯

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたします。

行方不明の方々のご遺族様どうぞお身体をご自愛くださいますように。

## 宮城県仙台より

— text by プロボディーボーダー、  
海の学校 in MIYAGI 代表 角田恵

**震**災から1年が経過した昨年2012年。それは東日本大震災から1年目の3月11日を区切りに、被災地に大きく変化を見せました。とにかくモチベーションを高く。住む人も、ボランティアなどで訪れる人も日常とは違う興奮に包まれ、ある意味、「お祭り」のようだった1年に、この日を境に疲れの色が見えてきたのでした。今後も長く続く復興までの道のりに、先の見えなさを感じて、それでも毎日を過ごさなくてはいけない地域の不安な生活。復興活動に意欲的だった人たちにも携わる時間に限界が見えてきたようにも見受けられました。

2012年、被災地の中や、それ以外の様々な地域に出向き、沢山のひとと震災についての話をする機会をいただきながら、私

Wa-Syoi 夏祭りの様子



は大きく3つの活動に力を入れました。一つは2011年に引き続き私の住む七ヶ浜町(震災で町の30%が浸水)に元気を取り戻す夏祭りの開催です。「海からもらったパワーで町を元気に」をテーマに、県内外からの沢山の応援をいただき、約800人の来場。沢山の笑顔に触れることのできた温かい日になりました。

二つ目は、被災の景色が見えない他の地域へ招待するツアーです。町内に住む親子を対象に3月には沖縄、12月には宮崎と、2回のツアーを企画から携わせてもらいました。それぞれの地域で支援をしたい方々に、現在の被災地の状況や関わり方等を伝え、一方通行ではない関わりのあるツアーを提案することで、被災地の方々から震災当時の生の声を聞かせることもできました。また、以前より関わりのあるサーファーの方々のサポートもあり、ツアー内では海を楽しむ時間を取り入れており、子供たちが美しい海を見て無邪気に波打ち際に駆け寄る姿、父兄の方々からの「海で遊ばせたいと思っているのだけれど、地元の海には怖くて連れていけない」という声をたくさん聞かされた事が印象的でした。

三つ目は、地域のサーフポイントの放射能測定です。これは、地元の海水浴場である七ヶ浜のビーチと、ホームポイントであった仙台新港の砂を全五か所に分けて毎月一回のペースで砂を採取して、民間の測定室にて測定を行いました。測定を始めた頃から夏までの時期には、日本の食品の暫定基準値に近いぐらいのセシウム量が出る場所もありましたが、最近は、大分少なくなっています。セシウム量の変化は一定に少なくなっていたものではなく、高くなったこともありました。全く同じものを計測できる訳でもなく(採取のために砂を取るの、同じ砂を測定することはできません)海の潮の満ち引きや気候など考えられる変化は多くあり、その原因は私には特定できません。東北以外の地域も何度か測定をお願いしたことがありましたが、全く出ないという結果には安心を覚えました。測定を一年間続けてみてわかったことは、その数値がどういう意味を持つかがわからないということです。前例の少ない状況の中でどんな人にどんな影響がどんな時にでるのか、一部を採取して少なく



ったセシウムは消えてなくなっているのではなく、どこかに何らかの形で移動している、拡散しているのだろうか、という二つの疑問が生まれました。

昨年の三つの活動には、どれもサーフライダーファウンデーション様より、ご協賛をいただき、活動させていただきました。夏祭りにはボランティアでのブースの出店としてもご参加いただき、会場と一緒に盛り上げてもらいました。沢山の人の気持ちが重なり合い一つになって生まれる温かい空気もとても心地よく印象的でした。サーフライダーファウンデーション様をはじめ、どの活動もたくさんの方々のお力添えと知恵があつてこそできたことでした。この場をお借りして深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

これから向かって考えていることは、海に不安を覚える一般の方々はどうやって海への道を作るのかということです。まだ長く続くと思われる不安定な海の環境を持って、私達が長く続けていける活動方法も考える必要があると思います。漠然としています、今は自分たちに何ができるかを模索中です。大好きな海をみんなに大好きでいてもらいたい。そのためにできることを今後も探していきたいと思います。

## 宮城県女川より

— text by 女川ママサポーターズ代表 八木純子

2011年3月11日の東日本大震災から3年目に入りました。ようやく当時の事を冷静に振り返られるようになりました。当時は、信じられない光景を目にし、現実として受け止めることができませんでした。何が何だか分らぬまま、3日過ぎ、1週間過ぎ、けれど動き出さないと、食事もできない、家族も探せない。震災を機に様々なことが変わっていきました。子供たちの卒業式もなくなり、学校もかなり遅れての開始でした。でも、何よりもつらかったのは「俺、時々、震災の時の流されていく様

女川キッズサーフィン体験教室を終えて



子を夢に見るんだ」といった子どもたちでした。

そこで、「海は素敵なおとこ！」という思いを再び持ってもらいたい、今までのように「大好き海！」と言ってほしいと思い、2011年9月に葉山トライアスロンへの参加を決めました。前日、「俺は無理、怖い！」と口にしていた子どもたちですが、その場になると何の戸惑いもなく海に入り楽しんでいました。この体験から得られたものは非常に大きかったです。子どもたちは、その後の進路や進むべき道、目標をつかんで、石巻に帰ることができました。

2012年も参加したいという思いは強かったのですが、「資金」という壁が大きく立ちはだかっていました。その困っている時に、サーフライダーファウンデーションよりたくさんの方々の支援金と、子どもにサーフィンを教えて頂けるという有難いお話を頂きました。そのおかげで無事葉山に行けることになり、トライアスロンに参加し、その後、はじめてのサーフィンを教えていただきました。十分楽しんだ後、「やはり海は楽しいよね。海は大好き」という子どもたちの言葉に、私も大満足させていただきました。

#### 義援金使途明細

Wa-Syoi 夏祭りイベント協賛金	¥60,000
Wa-Syoi 夏祭りイベント参加経費	¥106,399
仙台水質調査費	¥132,000
女川キッズイベント協賛金	¥92,000
女川キッズサーフィンイベント実施経費	¥18,910

ご寄付頂きましたみなさま、ありがとうございます！

HAYAMANトライアスロン2012 にチャレンジした宮城県女川の子もたち



# OUR SUPPORTERS

## THANK YOU SO MUCH!

2012 年度にご寄付、ご協力頂いたみなさまです。

**THANK YOU SO MUCH!**

順不同、敬称略。

### 寄付

ディオニー(株)、(有)シーガルワークショップ、(株)丸紅フットウェア、(株)エムディーエス、  
(株)NIXON Tokyo Japan、ティーズ・ハウジング(株)、日新堂印刷(株)、(株)パンブリック、KEEN Japan、  
ルアナサーフデザイン、SURFRIDER FOUNDATION US、(株)広告工房プラス・エイティワン、ハワイアンサポート

### 2012年度サポーター(2013.3.31 現在) 入金日より一年間有効

#### 企業サポーター(年会費¥10,000)

ニコウトレーディング(株)、surf line hawaii、(株)デミパブリックリレーションズ、RASH WETSUITS

#### ショップサポーター(年会費¥5,000)

サーフギャラリー、ダイニング & 泡盛 Bar うら庭、水戸スペインバル GANCHO、ALAKAI、  
KAI SERVICE、WEDGE、richard-le-boulangier

#### 個人サポーター(年会費¥2,000)

140名

### 協力

日本サーフィン連絡協議会、JPSA、NSA、JPBA、ASP Japan、波伝説、+BCM、なみある?、surfdays、一宮サーフィン業組合、  
いすみ市サーフィン業組合、仙台サーフユニオン、茨城サーフユニオン、日本ウェットスーツ工業会、和歌山県サーフィン連盟、表浜  
ネットワーク、インタースタイル実行委員会、アロハフェスティバル in 高松、GreenTEE、海の学校、角田恵プロ、斉藤ユリプロ、早  
稲田暁生プロ、大磯キッズサーフィンチャレンジ、女川ママサポーターズ、日本沿岸域学会、日本サーフ学会、港湾空港技術研究所、  
(株)サンコー、(財)千葉県薬剤師会検査センター、アースデイ東京 2012、(株)グリーンアップル、NPO 法人ワールドオーシャン  
ズデイ、(株)アドプロ、ムラサキスポーツ、(株)すわ製作所、(有)テラス、(株)練馬材検サービス、TOMMY WAVE、パタゴニア  
日本支社、GREENROOM FESTIVAL、モンスターズ、花井祐介、5Gyres Institute、Algalita Marine Research Foundation、湘  
南ビジョン研究会、NPO 法人チャレンジ・アスリート・ファンデーション、HAYAMAN トライアスロン 2012 大会実行委員会、SURF  
SAVE THE EARTH、Marina Debris、Heather Brown、Jason Mraz、Belida Baggs、Donavan Frankenreiter、Nick Saxon、  
Captain Charles Moore、J-WAVE、FM Yokohama、InterFM、Surfrock International、LOVE FOR NIPPON、Outdoor Japan  
Traveler、e-Mook MonoMax、THE SURFER'S JOURNAL JAPANESE EDITION、THE GIFT ISLANDS

### 特別協力

GMO クラウド株式会社

**SPECIAL THANKS TO THE SURFRIDER FOUNDATION FAMILY AND ALL THE SURFERS OUT THERE !**

**SURFRIDER FOUNDATION JAPAN ANNUAL REPORT - VOL.42. MAY2013**

EDITORIAL STAFF : HIROMI MATSUBARA, ESTHER BOURRET, SFJ VOLUNTEERS

DESIGN : AYA WATANABE\_ayadesignstudio

発行・編集 一般社団法人サーフライダーファウンデーションジャパン 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮10091-1 アイリーハウス2階

TEL\_ 0475-42-2237 / FAX\_ 0475-47-4447 / EMAIL\_ sfj@surfrider.jp / WEB\_ <http://www.surfrider.jp>

FACEBOOK\_ <https://www.facebook.com/SurfriderFoundationJapan> / TWITTER\_ @surfriderjapan